

会議結果報告書

令和7年11月6日

会議の名称	令和7年度 第3回舞鶴市文化振興事業企画懇話会	
種別	☐ 附属機関 ☒ 懇話会等	
開催日時	令和7年10月21日（火） 19時00分 から20時30分	
開催場所	舞鶴市役所 本館2階202会議室	
出席者	<委員> 椿委員長、山本副委員長、山口委員、坂本委員、仲野委員 <事務局> 福田部長他4名	
議題	(1) 新規事業案について (2) その他	
公開の区分	☒ 公開	
	☐ 部分公開	
傍聴者数	なし	
審議結果 及び 主な意見等	会議録のとおり	
会議録の作成様式	☐ 詳細 ☒ 要約	
備考		

担当課	舞鶴市 生涯学習部 文化振興課 TEL (0773) 66 - 1019
-----	---

令和7年度第3回舞鶴市文化事業企画懇話会 会議録（要約）

日時：令和7年10月21日（火）19：00～20：30

場所：舞鶴市役所 本館2階202会議室

出席：坂本委員、椿委員、仲野委員、山口委員、山本委員

（事務局）福田部長、森次長、横川課長、佐藤係長、森下

欠席：小谷委員

会議内容：

1. 議題：

- （1）新規事業案について
- （2）その他

【委員からの主な意見】

（1）新規事業案について

- ・事務局：前回ご提案いただいた案の中から、来年度の予算要求に向けて、2つに事業を絞った上で、さらに皆さんのご意見をいただきたい。

■「ロクディム公演」

○内容について

- ・現在市内に演劇の部活動があるのは西高のみ。不登校の生徒も増加している中でロクディムのようなワークショップを実施するのはとても良いと思う。
- ・ワークショップを実施してから観劇をする方が参加者の印象に残りやすい。「ワークショップ→観劇」とすべき。

○予算について

- ・予算の規模感について詳しくは知らないが、ロクディムは自治体の予算に合わせて実施内容や来訪人数等を調整することができると思う。

○対象について

- ・どの年代でも実施事例があるため、どこでも対応できる。
- ・大人を対象にしたワークショップも良い（例：市職員、会社、福祉関係者、先生等）。ワークショップを経て、内に隠していた本当の心の内を理解し合うことができる。
- ・実施可能な参加者規模としては、100人程でも可能。200人となった場合はロクディムの来訪人数を3人以上にする等の調整もできる。

■「文化情報だより」の見直し

○予算について

- ・業者にデザインと印刷も含めて一括委託し、安価な方法で印刷することはできる。

○発行頻度について

- ・ある程度基盤を構築し、スケジュール感についても締切のルーティンを構築すれば、毎月でも可能だと思う。

○内容について

- ・文化情報だよりも情報としては必要。
- ・現状、文化に興味のある人しか好んで見ないような印象の情報紙となっている。友の会入会者以外の人も興味を持つような情報紙にしていきたい。

○内容について

- ・文字が多い印象。高齢者は読めないと思う。文字を減らし、テンプレートを作るとスペースを作れるのでは。
- ・「文化情報だより」というネーミングも興味を引くようなものに変更できれば良いと思う。
- ・舞鶴市内で何か文化活動をしたい人向けに、この情報紙を見ればどのようなことができるかが分かるような内容にしてはどうか。
- ・各イベントの裏側や、制作者をフューチャーしたインタビュー記事を載せてほしい。
- ・市内の文化通に聞く、おすすめ公演教えてコーナーも面白いと思う。
- ・情報紙作成に参加できるシステムがあると愛着が湧くのでは。

○本格実施に向けて

- ・来年度上半期に準備し、下半期から内容を刷新するようなスケジュール感で検討したい。

(2) その他

■市提案新規事業について

事務局：市職員の方でも6個新規事業を考えた。ご意見いただきたい。

- ・どれも面白そう。「①若年層向け文化の祭典」と「④Backstage Crew」は組み合わせられると思う。他事業も色々な組み合わせができるのでは。
- ・「④MMAAプロジェクト」について、市民が自分で照明や展示スペースを演出することで、まちなかを明るくすることができるのでは。
- ・過去にも市民参加型の公演や舞台裏体験の事業を実施したことはあるが、単発の事業で終わってしまった。課題の検討も必要だと思う。
- ・「②文化財謎解き探検ツアー」について、スタンプラリーをするのは高齢者が多い印象。謎解き要素を入れる等の工夫が必要だと思う。
- ・「④MMAAプロジェクト」に「アート×食」というテーマを取り入れると、皆の興味を引くと思う。発展すれば、アート展示の提携飲食店も出てくるのでは。
- ・「⑤市展と露店等の同時開催」について、露店を目当てに来た人が、ついでに市展を見て文化に興味を持てもらうというような逆ルートの新規開拓も期待できるのではと思う。